

宮路拓馬 国会通信

■ 高校生 100 人と 憲法、18 歳選挙権など討論

8月4日、全国の高校生100人と与野党の国会議員や有識者が一堂に会して、憲法や18歳選挙権などについて討論するイベントが開かれました。私も民主党の次世代のエースといわれる玉木雄一郎議員とともに「平和」をテーマとしたグループにおいて意見交換を行いました。高校生の皆さんの熱意と真剣なまなざしに、大いに刺激を受けたところです。

公職選挙法が改正され、来年の参議院議員選挙以降は18歳から選挙権を行使できるようになります。若者の投票率や政治への関心の低下が問題となっておりますが、このような取組を通して、若者の政治に対する関心が高まるよう、私も若手の国会議員の一人として努めてまいります！

なお、翌日の東京新聞（全国版）には、『自民党の宮路拓馬衆院議員は「若者に政治に関心をもってもらうための貴重な機会だ」と強調した。』との私のコメントも掲載されました。



(8月4日 衆議院第1議員会館)

■ 「有人国境離島法案」 国会提出に向け精力的に行動

7月31日、自民党本部で開催された領土特命委員会・離島振興特別委員会などの合同会議において、有人国境離島新法案の今後の扱いについて、両委員会の委員長への一任が了承されました。その後の流れとして、政調審議会や総務会メンバーの先生方への説明といった党内手続きに加え、連立与党である公明党、そして、野党各党への根回しが必要となってきます。

私もこれまで総務省で10年間勤めてきた行政経験を買われ、1期生で唯一実働部隊に指名され、かつての上司であった新藤義孝前総務大臣や、『行列のできる法律相談所』でご活躍されていた丸山和也参議院議員をはじめとする各先生方に法案の説明に回りました。

その結果、8月20日に党の政調審議会の、翌21日に総務会の了承を得ることができました。

引き続き、早期の国会提出、法律の成立を目指してまいります！



(8月4日 参議院会館にて丸山先生と)

■ 自民党茶業振興議員連 茶の輸出拡大の推進

8月6日、自民党茶業振興議員連盟(会長：谷垣禎一自民党幹事長)の総会が開催され、茶の輸出に取り組む関係の皆様からお話を伺いました。

鹿児島県からは(有)西製茶工場の西利実社長が出席し、各国の農薬使用基準の違いによる輸出の難しさや、中国産や台湾産が日本産として販売されている問題などについて指摘されました。

政府は平成32年までに150億円の輸出目標を掲げていますが(平成26年実績：78億円)、目標達成のためには、産地証明や農薬検査体制の整備について、政府の強力なバックアップが必要です。

議員連盟では、月末の平成28年度予算の概算要求作成に向けて提言を作成することとしていますが、私も事務局次長として、国内消費や輸出の拡大のため頑張っています！

■ 『プライムニュース』出演 川内原発再稼働について語る

8月11日、福島第1原発の事故の発生を受けて新規規制基準が導入されて以降、全国で初めての再稼働が川内原子力発電所第1号機において行われました。

我が国のエネルギー政策を考えたとき、①エネルギー安全保障(エネルギー自給率25%を確保)、②エネルギー・コスト(福島の事故後、家庭用で2割以上、産業用で3割以上電気料金が高騰している中、これ以上の上昇を抑える必要があります)、③温暖化対策(温室効果ガスの排出を欧米並みに削減)の観点から、安全性の確保を大前提として、原発の再稼働は避けては通れません。

その「安全性の確保」について、私は、役所時代の最後のポストであった内閣官房(安全保障・危機管理担当)において、原子力規制庁と議論を重ね、世界最高水準

と言われる新規規制基準がいかに厳しいものであるかということ、そして、万が一重大事故が発生した場合でも、万全の備えが講じられていることなど、実務を通じて十分に理解・確認してきたところです。

加えて、地方に雇用と富を生み出す再生可能エネルギーの普及拡大のためにも、原発の再稼働は必要です。

そうしたことを、信念をもって、分かりやすく国民の皆様にお伝えしていくことも政治家の使命であると思っています。その思いで、8月18日には宮沢洋一経済産業大臣との意見交換において地元の声をお届けし、また、翌19日には、BSフジの『プライムニュース』に出演し、自民党と地元を代表し、原発の必要性和安全性について説明をさせていただきました。

今後も、衆議院原子力問題調査特別委員会の委員として、地元の声を国に届けるとともに、国民の皆様にと丁寧に分かりやすく説明をし続けてまいります！



(8月18日 経産大臣室)



(8月19日 フジテレビスタジオ)